

認定看護師だより

2015年 6月
VOL. 47

あっという間に6月になり、夏はもうすぐです。夏を迎えるにあたり今年も感染が危惧されているデング熱についてお伝えしたいと思います。

デング熱とは

デング熱はデングウイルスを保有した蚊に刺されることによって感染します。通常、日本にデングウイルスを保有する蚊はいないため、海外でデングウイルスに感染した人が、日本で蚊にさされ、右図のような経路で感染が拡がると言われています。蚊がウイルスを媒介するため、ヒトからヒトに直接感染するといったことはありません。

感染すると、3～7日の潜伏期間のあと、突然の発熱、激しい頭痛、関節や筋肉の痛み、発疹などの症状が出現します。2～7日で解熱しますが、まれに重症化することもあります。刺された全ての人にデング熱の症状が出現するわけではなく、不顕性感染(感染していても上記の様な症状が出ない、または軽い症状である)の人も一定数存在すると言われており、一旦デングウイルスが持ち込まれると感染拡大をくい止めることが難しい状況です。

予防・対処方法

一番の予防方法は、蚊に刺されないことです。蚊の多い場所での活動を避け、入らざるをえないときは肌の露出を避けることが重要です。そのため長袖、長ズボンの着用が望ましいです。蚊の習性としては、濃い色に近寄る傾向があります。そのため黒・青・赤色は避け、白や黄色などの明るい色の服を着ることも予防につながります。また市販されている殺虫剤や虫よけを使用することも効果的です。虫よけはリングやスプレー・シール等、色々なタイプのものが発売されています。使用時の説明をよく読み安全、適切に使用して下さい。

蚊に刺されない予防法についてお伝えしてきましたが、蚊の発生を防止することも重要な対処方法となります。家のまわりに水たまり(バケツにたまったままの水、じょうろに入れたままの水など)はありませんか?蚊はこのような場所に卵を産みつけ、それがボウフラになりやがては成虫である蚊になります。夏が来る前に水たまりを排除し、蚊が発育できないような環境づくりも重要です。

図 デング熱の感染経路



①～③が繰り返され、感染が拡大する



文責：感染管理認定看護師 林沼 聖子